



CLUB NEWS

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック
山形中央ロータリークラブ
ロータリアンの豊かな創造力・発想力で
新たな一歩を皆で踏み出そう



〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日 12:30~13:30(但し第5週は18:30~) **会場** ホテルメトロポリタン山形

- | | | |
|-----------------|--------------|---------------|
| ■ 会 長 石山 徳昭 | ■ 職業奉仕 斎藤 眞 | ■ 副 幹 事 高橋 恭治 |
| ■ 会長エレクト 玉ノ井憲史 | ■ 社会奉仕 相川 博昭 | ■ 会 計 青柳 紀子 |
| ■ 副 会 長 長谷川 淳 | ■ 青少年奉仕 奥山 宏 | ■ S A A 高橋 恭治 |
| ■ 直前会長 長橋 正人 | ■ 国際奉仕 柴田 修英 | |
| ■ クラブ管理運営 本間 雅之 | ■ 幹 事 佐竹 猛 | |
- 国際ロータリー会長 江ノ川ジョージ(カナダ)
第2800地区ガバナー 佐藤 孝子(鶴岡)
第5ブロックガバナー補佐 後藤 卓也(山形イブノ)



イマジン
ロータリー

- ◆日時 / 2022.8.19 11:45 ◆例会場 / ホテルメトロポリタン山形 ◆ソング / 奉仕の理想
- ◆ビジター / RI第2800地区 第5グループガバナー補佐 後藤卓也氏

会長挨拶



皆さん、こんにちは。8月に入り、天候不順が続いています。先月の例会で2018年(令和元年)の梅雨が今年と同じくかなり早く明け、100年に一度の異常事態となった「西日本豪雨災害」にふれ、注意が必要とお話しました。まさかその翌月の8月3日夜から翌4日朝にかけて山形県内初となる大雨特別警報が発表されるとは思いませんでした。大雨特別警報は「これまでに経験したことの無い大雨となり、何らかの災害が発生している可能性が高く、直ちに身の安全を確保する必要があります」と判断された場合に発表されます。この度の豪雨災害で、県内各地、特に置賜地域や隣県新潟県村上市他各地に大きな傷跡を残しました。被害にあわれた方々にお見舞い申し上げます。このような異常気象は100年に一度ではなく、亜熱帯地域のごく当たり前のスコールに似た降り方をしていると思います。

地球温暖化が叫ばれ、相当の時間が経過しても何も変わらない実情に地球が怒っていると思える出来事が、今年の上半期だけでも世界各地で起こっています。3月に北インドの熱波。5月中旬頃にはインドのバンガ地区で50℃近い気温が観測されました。また、4月には南アフリカのクワズールナタールで60年ぶりの豪雨に土砂崩れと洪水で町が破壊されました。5月にはブラジル北東部とインドアッサム州で集中豪雨による洪水が、6月は147年ぶりの猛暑を日本各地で観測しました。7月にはオーストラリアのシドニーで洪水が発生、一時5万人以上の人が避難を余儀なくされました。ヨーロッパでは記録的な暑さが続き、山火事や交通機関の乱れなど、市民生活へ影響し始めています。物流の大動脈であるライン川が渇水で水位が低下し、普段の四分の一以下しか船に積み込めないなどの事態になっています。中国では猛暑と渇水で発電量が不足し、企業の経済活動に影響が始まっています。北アメ

リカでも大きな森林火災が発生し、多くの住民が避難する様子を報道等で見られた方も多くいらっしゃると思います。

「未来のために私たちができることは何か?」を今一度考えてみましょう。「無駄をなくす」「省エネを心掛ける」等、もう少しでもできることが無いか気づくことが必要です。漫然と時間を過ごさず、できることから始めてみましょう。今夜早速必要ない部屋の灯りが点いていないか?一人一部屋に籠らず、家族で集まり地球温暖化について話し合う事も良いでしょう。難しければ、家族でテレビでも見ながら一緒に過ごしてみましょう。個々の時間も必要ですが、「コミュニケーションの重要性を忘れない」時間を過ごすことも必要ではないでしょうか。

本日は通常例会を変更して、ゲストに2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長を務められ、現参議院議員の橋本聖子先生をお招きしました。山形市サマーチャンプ大会開会式へご参加前の大変お忙しい中お越し頂きました。ここで橋本聖子議員のプロフィールを少しだけご紹介します。北海道勇払郡早来町(ゆうふつぐん、はやきたちょう)現在の安平町(あびらちょう)にお生まれになり、スピードスケート、自転車競技で夏冬計7回のオリンピックに出場され、アルベールビル大会ではスピードスケート1,500mで銅メダルを獲得、日本人女子初のメダリストとなりました。お父様が1964年に開催の東京オリンピック開会式をご覧になり、「聖火」にちなみ「聖子」と名付けられたエピソードは皆さんご存知だと思います。平成7年参議院議員に初当選以来、北海道開発総括政務次官、外務副大臣、自由民主党参議院党政策審議会議長、参議院自民党議員会長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会担当大臣、そして先に申し上げた同競技大会組織委員会会長等要職を歴任されています。橋本聖子先生、ご講演宜しくお願い致します。

それでは本日で参会の皆さん、少しの間ですが楽しく有意義な時間を共に過ごしましょう。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	37名	—	22名	—
修正出席				
他クラブでメイクアップされた会員				



ゲスト卓話

東京大会の成果と課題

— そのレガシーの継承と発展 —

橋本聖子氏

橋本聖子でございます。本日は変更例会ということでご配慮いただきまして、ありがとうございます。長谷川幸司先生、遠藤利明先生のお導きで山形県には何度も参っておりますが、山形県のロータリークラブでの講話は初めてのことです。ご縁をいただき、嬉しく光栄に思います。ありがとうございます。

さて、私は1967年10月5日に生まれました。私が生まれて5日後になりますが、10月10日は、日本にとって大きな出来事がありました。アジアで初のオリンピック、東京オリンピックが開幕したのです。

父はスポーツが大好きで、自身もかつて力士になりたかったというほどの力持ちでした。そんな父は、東京オリンピックが開かれると聞くと、居ても立ってもいられず、「どうしてもおふくろに開会式を見せてやりたい」と、祖母を背負って上京しました。

開会式前日には台風が接近したため、天気が心配されましたが、当日は日本国中が期待した、素晴らしい日本晴れだったそうです。父と祖母の席は、聖火台への階段がグラウンドからせり上がっているすぐそばでした。チケットを手に入れるだけでも大変だったのに、その席を確保できたのはとても幸運なことでした。

天皇陛下が開会宣言され、オリンピック旗が掲揚されると、3発の祝砲が鳴り、トーチを掲げた聖火ランナーが競技場に入場しました。聖火ランナーはトラックを回った後、階段を上り始め、座っている祖母と父のすぐ横を通り過ぎました。その青年がトーチをかざして聖火台に火を移した瞬間、抜けるような青空に大きな炎が燃え上がりました。

父は深く感動し、苫小牧の病院に入院している母に東京から電話をかけ、こう言ったのです。「決めたぞ！生まれた子の名前は聖子だ。聖火の聖だ。絶対にオリンピックの選手に育ててみせる！」

こうして私は生後5日目から、父によって「オリンピック選手になる」というイメージ・トレーニングを施されてきたように思います。まさにオリンピックとの運命の出合いです。

そして1972年に開催された札幌オリンピックを見て、オリンピック選手になることは私自身の夢になりました。父が「聖子」と名付けてくれたことに導かれて、私は人生の大きな目標を得ることができたのです。それからはオリンピックを目指して、自分の道を歩んできました。

しかし、「山高ければ谷深し」という言葉の通り、オリン

ピックという高い山に向かうには、深い谷を越えて行かなければなりませんでした。

私の場合、最初の谷は小3のときに患った腎臓病でした。2カ月で退院することができましたが、「腎臓病は、いつ再発するかわからない。スポーツなんてとんでもない」と言われ、約2年間スポーツは禁止され、学校の体育の時間でさえ見学しなければなりませんでした。心底、スケートがやりたくてたまりませんでした。だから、とにかく耐えました。この時期の2年間は本当に長く感じられました。

2つ目の谷は高3のときにやってきました。オリンピックを目指していた私にとって、一日たりとも無駄にできない大切な時期でした。オリンピックとオリンピックの間には実質3年間の時間しかありません。選手の中には、その3年間は全日本チャンピオンだったのに、オリンピックにだけ出られなかったという人もいますし、逆にオリンピックの前後は調子が悪かったのにオリンピックには出場できたという人もいます。実力に加えて運が伴わなければ出場できないのがオリンピックなのです。

私の場合、中3でレークブラシッド大会を迎えましたが、まだまだ世界レベルの実力というわけにはいかず、4年後のサラエボ大会を目指すことに切り替えました。高1から非常に良い記録が出るようになり、高2で全日本チャンピオンにもなれ、世界大会にも出場するようになりました。オリンピックとオリンピックの間の大切な3年間、それが私の場合、高校の3年間と重なりました。死に物狂いで練習して、すべては順調でした。世界的にも、あと一歩で強豪選手と戦えるところまで記録も伸びていました。

ところが、サラエボ大会が1年半後に迫った高3の秋口のこと、朝になっても疲れが取れず、体にむくみが出てきました。ある朝、はっとなりました。慌てて検査をすると、尿タンパクの数値が上がっていて再発しそうだということがわかり、練習を止めざるを得なくなりました。

もう少しでオリンピックに出場できるというところまでできたのに、入院生活をしているという状況で、自分で自分が許せませんでした。そして、ストレス・コントロールが破綻した結果、私は呼吸筋不全症を患いました。呼吸筋不全症は、呼吸するための筋肉が動かなくなる病気で、一時は意識不明の状態に陥り、命も危ぶまれました。実は今でも、この呼吸筋は動きません。ずっと腹式呼吸をしていて、深呼吸をすることができないのです。

この病気の原因はストレスなのですが、それがわかって



からも、ストレスがストレスを生む悪循環は、すぐには止めることができませんでした。高校生という多感な年頃で荷が重かったのかもしれない。一言で言ってしまうと、私の精神が弱かったということになります。「病は気から」といいますが、まさしく、その通りでした。

さらに、その後、不運にも病院内でB型肝炎に感染してしまい、腎臓病と呼吸筋不全症、そしてB型肝炎の、いわば三重苦に苛まれました。病との闘いは、私の人生にとって本当に深い谷でした。

しかし、振り返ってみると、こうした病の経験がなければ、今の自分はなかったと思います。なぜなら、病気になることで、自分の体を注意深く、しっかり管理し、節制することを覚えたからです。特にアスリートは、アンチ・ドーピングの観点から薬が使えず、自分自身の治癒力を向上させることで病気をやけど、疲労から回復します。病気から回復すること、そして、その病気と折り合いつけていくという経験によって、私はアスリートとして大きく成長できたように思います。

さて、昨夏開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京大会)は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により開催が1年延期され、その後も世界的に継続するコロナ禍の影響の下、大会開催の是非も含めて様々なご意見がありました。そのような中、東京大会は徹底した水際対策や行動管理等を通じた感染症対策を行い、史上初めて大部分の競技が無観客での開催となりました。2013年の招致決定から8年もの間、入念に準備してきましたので、会場で観戦してもらうことができなかったことは本当に残念でしたが、映像を通じて世界中の人々がつながることができ、新たな価値が生まれ出された大会となりました。開催準備もリモートで行われたため、最初は戸惑いもありましたが、今まで以上に綿密な計画を立てることができたように感じています。

2020東京大会は近代オリンピックとして32回目。そしてパラリンピックが16回目ということで、1964年に開催された東京大会から57年ぶりということになります。当時参加国は93か国でした。今回は206の国と地域が参加してくださいました。選手も11,000人ということになります。競技数も5競技増えて33種目の339種目ということになりました。

パラリンピックは163か国と地域が参加してください

まして、選手は4,403人でありました。

実は、東京大会は世界中から高く評価されています。コロナ禍の中、安全な大会運営をやり遂げたこと、サイバー攻撃に耐え、その脅威を全く感じさせなかったこと、世界中から集まってくれたアスリートの皆さんがホスピタリティの高さをとても喜んでくれたこと等、マスコミは評価が高いことは全く報道してくれなくて、少し残念に思います。

コロナ禍という未曾有の危機に直面する中、どう開催するかが注目された大会でした。全てが完璧だったかということ、そうではないと思いますが、わが国が東京大会を無事開催できたことの意義はとて大きいと思います。東京大会が徹底した感染対策を施した上で開催されたことは、感染症を正しく恐れ予防するウィズコロナの時代の始まりであり、同時に、全力で競ったアスリート達とそれを支えた人々の取組みは、子どもから大人までスポーツ参加への意欲向上を促し、自らの健康保持に対する関心を高める大きな契機にもなりました。

そして、選手の皆様からは、特にトータルコンディショニングサポートを実現させたことが大変喜ばれました。トータルコンディショニングサポートとは“医療とトレーニングの両サービスを連携させ、選手のコンディショニングを包括的にサポートすること”です。

選手村には、ポリクリニックとフィットネスセンターが設置されることは通例ですが、過去大会において、この2つの施設は選手村内にて別々の場所で設置をされることが多く、連携も十分ではありませんでした。しかし、東京大会では、この2つの施設を一つの建物内に設置し、トータルコンディショニングオペレーションを可能とする環境設定にしました。そして、より専門性を高めたトレーナーサービスを提供するために、約80名のアスレチックトレーナー、ストレングコーチの方々も活動していました。

例えば、受傷して患部に痛みがあるアスリートをポリクリニックにてドクターチームが対応し、その後の機能改善や予防のためのコンディショニングとトレーニングサポートをフィットネスセンターにてトレーナーチームが行いました。ドクターから提供される患部に関する情報を踏まえ、患部の痛みの原因、受傷に至った原因を探るべく全身の動作評価を行います。その動作評価に基づき、単関節の可動域へのアプローチ、コアトレーニングそしてバラ



ンストレーニング等を行いました。その後、統合動作の指導を行い、正しい動作パターン習得による怪我をしない体づくりのためのアプローチを行いました。

その結果、オリンピック期間においては、利用人数がのべ約54,000人、1日の利用人数はピーク期間においては約

3000人を記録しました。パラリンピックの期間においては、のべ約18000人に利用され、ピーク期間における1日の利用人数は約1300人となりました。

この経験は、東京大会のレガシーだと思います。このトータルコンディショニングセンターの考え方を地域社会に還元すれば、健康寿命を伸ばし、制度、分野ごとの「縦割り」や、「受け手」「支え手」という関係を超えて、人や資源が世代や分野を超えてつながっていく「健康共生」のまちづくりを進めることができるのではないかと考えています。

わが国では急速な少子高齢化と人口減少が深刻です。このまま医療や介護等に係る費用が増大し続ければ、社会保障制度の持続可能性に懸念が生ずるおそれがあります。国民一人一人が主体的に健康の保持増進及び疾病予防のための取組を行うことはもとより、その意欲が喚起される仕組みの導入、生きがいのある生活の実現に寄与する社会参加の機会の確保、多様な住民相互が助け合う共生社会の推進

等、個人の健康保持増進及び疾病予防のための取組の促進に資する社会環境の整備を行うべきです。健康寿命の延伸を図り、国民一人一人が将来にわたって身体的、精神的、社会的に健やかで充実した生活を営むことができる地域共生社会を目指した「まちづくり」を図りたいと考えています。

東京大会を通じて「する」「見る」「ささえる」といった様々な立場で参画した人々はもとより、共生社会実現への取り組み、多様な主体によるスポーツ参画の促進、スポーツへの関心をいかした地方創生、まちづくり、官民のネットワークを培った経験は、わが国が成熟した国として健康共生社会を形成するために、継承・発展させるべきです。

今後、残された様々な課題に向き合ながら、この貴重な経験を世界に発信していくことは成熟した国である日本が国際社会において果たすべき役割であるはずで、オリンピック・パラリンピックの価値の本質が世界中に広がり、このムーブメントが一層推進されることを願っています。



ニコニコ情報

佐藤登美子・柴田修英／橋本聖子議員先生のご来訪に感謝申し上げます。益々ご活躍をご祈念申し上げます。

石山会長一年間で健康でRCを楽しんで下さい。

板垣喜代志・本間雅之／本日講師、橋本聖子氏の講演に際し、お礼申し上げます。今後益々のご活躍をご祈念します。本日はありがとうございます。

玉ノ井憲史・長谷川淳・佐竹猛／橋本先生、ご講演ありがとうございました。今後の更なるご活躍期待しております。

石山徳昭／橋本聖子先生の卓話に感謝申し上げます。益々の御活躍を御祈念いたします。

ガバナー補佐 後藤卓也／橋本先生のご講演感動的でした。また、気さくなお人柄で接していただきありがとうございました。これからもお体に気をつけてご活躍下さい。影ながら応援しております。

